

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅰ-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

川津章弘

電話番号

0852-22-5137

事務事業の名称	畜産技術センター研究費	
目的	(1) 対象	県内畜産農業者
	(2) 意図	畜産に係る研究や開発により得られた新技術を畜産農家に提供することにより、飼養管理技術の向上と所得向上を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖技術、肉用牛、酪農、資源環境に関する研究(7課題)や、飼料の依頼分析、精液製造等の活動を実施。 ・このうち、平成28年度に終了した研究課題は3課題。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	終了した試験研究課題総数のうち、その成果が「普及」又は「目標達成」と評価された課題数の割合	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
		取組目標値							
	式・定義	その成果が「普及」又は「目標達成」と評価された課題数/終了した試験研究課題総数	実績値	100.0	100.0				%
		達成率	-	100.0	-	-	-	%	
2	指標名	目標値							
		取組目標値							
	式・定義	実績値						%	
		達成率	-	-	-	-	-	%	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	163,133	177,912
うち一般財源(千円)	65,766	62,067

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

<p>1. H28年度に終了した3つの研究課題について、農林水産技術会議において、全て「普及」と判定された。</p> <p>1) 鳥糞のバイオマス資源循環活用プロジェクト 家畜排泄物の利活用システムの開発</p> <p>2) 新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産</p> <p>3) 県内産雌子牛の商品価値向上を目指した「初期発育」強化技術の開発</p> <p>2. H29年度からの新規研究課題として、以下の2つの課題解題研究課題を設定した。</p> <p>1) 県内産飼料を活用した発酵TMR給与による、「しまね和牛」の短期肥育技術の確立</p> <p>2) 早生莖葉型イネホーククroppサイレージを用いた飼料イネ給与技術の確立</p>

6. 成果があったこと(改善されたこと)

<p>1. H28年度に終了した3つの研究課題について以下の研究成果があった。</p> <p>2. 主な研究成果</p> <p>1) 家畜排泄物の利活用システムの開発 常在菌で高温発酵を実現できる堆肥化処理技術を開発。切り返しによる堆肥化処理と比較して乾物分解率が10%程度向上。高温発酵により発生する余熱を回収・利用して、堆肥化発酵を加速できるシステムを開発。このシステムにより約2週間早く乾物分解率が25%まで達し、堆肥の容積は12%減少する。</p> <p>2) おいしい「しまね和牛肉」の生産 味覚センサー、ビジュアルアナライザーによる牛肉の品質(味、外観)の客観的評価手法を開発。枝肉の締りは、保水性やかみ切りやすさなどの食肉としての特性に影響を及ぼすことが示された。ビタミンEを給与した牛肉は、保存後の変色度合いが小さくなることから、肉色の改善が期待される。</p> <p>3) 「初期発育」強化技術の開発 出生2週齢での子牛の体型測定による母乳量判定に基づき、適宜。追加哺乳を行うことにより、子牛の初期発育強化を実現できることが明らかとなった。</p>

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営の安定化を図るため、家畜の遺伝的能力の向上や飼養管理技術の改善等により、家畜の生産性を向上させるとともに、安全で高品質な畜産物の生産、畜産物のブランド力の強化等が求められており、今後とも継続してニーズに対応した技術開発をすすめていく必要がある。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳用牛、肉用牛ともに、飼養農家戸数の減少が続き、生産基盤の脆弱化が進行。 ・特に和牛繁殖経営では、担い手の高齢化や後継者不足等による離農が増加し、担い手と労働力の両面で、人手不足が深刻化している。 ・飼料価格の高止まり、肥育・繁殖基牛価格、乳用後継牛価格の高騰等による生産コストの増加。 ・和牛肉の消費者ニーズの多様化、産地間競争の高まり。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省力で収益性の高い、水田・耕作放棄地、里山等を活用した放牧技術体系の構築 ・しまね和牛肉のブランド化に向けたおいしさの評価基準の策定と生産技術の確立 ・しまね和牛の能力の向上のための育種改良の促進等の研究課題について検討し、取り組んでいく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> ・新たな農林水産業・農山漁村活性化計画等の推進に係る行政課題解決のための研究課題や畜産農家のニーズを把握し生産現場の課題解決につながる試験研究の実施と普及に継続して取り組む。 ・研究成果を生産現場に普及させるため、研究報告や畜産技術レポート等にまとめ、発表会、研修会、ホームページ等を活用して、県民に広くPRしていく。 ・また、普及部や家畜衛生部との連携により、畜産農家への技術定着を図る。
